

大阪音楽大学付属図書館、音楽博物館

大阪音楽大学は、1915年に創立された。関西地区唯一の音楽単科大学で、邦楽や、ジャズ・ポピュラー音楽を専攻することもできる。また、附属施設に、壮麗な「ザ・カレッジ・オペラハウス」があり、専属の管弦楽団、合唱団を持ち、オペラや定期演奏会などを催している。

付属図書館（以下：図書館）は、メインとなる第一キャンパスの一番奥、芝生とレンガ道の広場に面して立っている。開校当初から図書室はあったが、独立した建物としての図書館は1966年に開設された。休み時間には、カウンターに学生の列ができ、職員の方は貸付け、返却処理や、出納に走り回っておられた。

2004年1月現在、音楽に関する図書・雑誌約80,000点、楽譜約41,000点、レコード・CDなどの視聴覚資料約49,000点を所蔵する。中でも興味を引かれたのは、雑誌の付録楽譜である。『音楽芸術』（音楽之友社発行1（1）1925.11 - 56（2）1998.12以後休刊）等の雑誌は、当時、若手作曲家の作品発表の場でもあり、その楽譜を付録として出版していた。ここでは、それらの楽譜を1曲ずつ書誌作成し、製本・保存している。現在活躍している現代音楽作曲家の無名の頃の作品に出会うことができるのである。また、楽譜全集は洋書も含めて網羅的に収集しており、音楽大学図書館

ならではの蔵書構成になっている。

音楽博物館は、2002年、附属楽器博物館（以下：楽器博物館）音楽研究所等を統合して設立され、第一キャンパスから1kmほど離れた第二キャンパスにある。体育館やレッスン室など他の施設と共同の建物ではあるが、音楽史上重要な、あるいは地域性に富んだ、宝の館であった。ここでは、主なコレクションを、楽器、視聴覚資料、紙形態の資料に分けて紹介する。

楽器はおよそ2,300点所蔵（1）している。スピネットと呼ばれる16～17世紀にヨーロッパで流行したハープコードや、関西で古くに使われていた棹の細い柳川三味線など、数多くの興味深い楽器が展示されていた。歴史的な楽器でも、単なる展示品としてではなく実演可能な状態で保存されており、これらの楽器を使った演奏会も催されている。

楽器のコレクションには、1966年に寄贈され楽器博物館の基礎となった「水野佐平コレクション」（邦楽器約70点）



と、1999年に寄贈された「サントリー弦楽器コレクション」(2)(西洋弦楽器76点)がある。なかでも西洋楽器史上重要とされる、イタリアの弓奏弦楽器製作者ガスパロ・ダ・サロの手によるヴィオラ・ダ・ガンバ(15世紀〜ルネサンス・バロック時代に普及していた弦楽器)は、4世紀以上の時を越えてなお凜としており、その特徴である頭部のうず巻きは深く美しかった。

視聴覚資料は、世界各国民族音楽のレコード、CD等約6,000点を所蔵しており、この中には現地で収録された生の音源も含まれている。また、「天神祭」に関する、1980年から10年間にわたるフィールドワークの詳細な記録(ビデオ、カセット、写真、ファイル等)約630点(3)も保管されている。

紙媒体のコレクションとしては、まず、「二世鶴澤清八浄瑠璃本コレクション」(4)(江戸〜大正期の稽古本等約1,600点)が挙げられる。二世鶴澤清八(1879〜1970年)は義太夫節の三味線奏者。学者タイプの演奏家であった。データベース化されており、2004年には浄瑠璃の上演会も行われた。

この他に筆者が目を見張ったのは、関西洋楽史資料(5)である。関西の洋楽活動の記録を、書籍、新聞切り抜き、雑誌記事・論文、機関紙、写真、各ホールの広告や音楽会プログラム、プレイガイドの案内、webサイトのプリントアウトなど幅広く収集しており、その蓄積は30万点にも及ぶ。明治時代から現在

まで年代順に配列されていて、閲覧も可能である。これは、洋楽流入の歴史を調査する上で大変有益なコレクションであり、収集、蓄積してきた職員や研究員の方の熱意を強く感じた。

図書館、音楽博物館とも、学外の利用者にも門戸は開かれており、所蔵資料のデータベース化も進められている。大学は、今年創立90周年を迎え、さらなる発展の最中にある。

関連目録・刊行物

- (1)『大阪音楽大学附属楽器博物館目録』大阪音楽大学附属楽器博物館 1998
- (2)『サントリー弦楽器コレクション目録』大阪音楽大学附属楽器博物館 1999
- (3)『天神祭：なにわの響き』井野辺 潔、網干毅編著 創元社 1994
- (4) 網干 毅、岩堀 智美、株本 真里他「二世鶴澤清八浄瑠璃本コレクション目録」
『音楽研究 大阪音楽大学音楽博物館年報』大阪音楽大学音楽博物館 19(2002) p.71-193
- (5)『大阪音楽文化史資料 明治・大正編』大阪音楽大学音楽文化研究所編 大阪音楽大学 1968
『同 昭和編』1970

2004年1月13日訪問

(アジア情報課(訪問時人文課)

小笠原綾)